

学燈 Gakutou

【第27号】



～1年間の学びを振り返って～



【教育実践開発コース 1年生】

1年間の大学院の生活を振り返ってみると、他校種・他教科の院生と共に学ぶことを通して、今までの自分にはなかった新しい考えに気づく機会が日常的であったことが印象的である。また、週に2日の学校実習では、様々な学年の子どもたちと関わる機会をいただき、発達段階に合わせた指導や支援の工夫、授業の在り方の大切さを考えさせられるきっかけとなった。特に、私の研究テーマである道徳科の現地授業を通して、子どもに道徳的諸価値を深く理解させるための発問の工夫という視点から授業づくりを行ったことで、改めて道徳科の授業づくりの難しさを実感したとともに道徳科の大切さも強く感じることもできた。残り1年、教職大学院だからこそできる理論と実践の往還を大切に、仲間とともに成長していきたい。

中迫 琴音（実習校：山口市立小郡南小学校）

【学校経営コース 1年生】

教職大学院の1年間を通じ、教育現場の様々な実践的課題を探求する機会を得た。その過程において、学校経営に必要な専門性やリーダーシップの在り方について多くの視点を学ぶことができた。

その中でも特に、教育課題を法令や制度・政策だけでなく、背景やプロセス等に着眼し、多角的に分析する重要性を理解したことにより、問いを立てる力が磨かれた。また、立てた問いを基に、自分なりの改善策や提案までを考えることができるようになったことも、大きな成果である。

組織マネジメントにおける学びでは、ビジョンや戦略を明確にして多くの人と共有すること、エビデンスに基づく改善策の立案、人材育成を視野に入れたチームビルディング等の視点を学校実習や課題研究に活かすことで、理論と実践を往還しながら学びを深めることができた。

今後は、1年目の成果・課題を活かし、より一層2年目の学びや提案を充実させていきたい。

吉武 優里（勤務校：下関市立山の田小学校）

【特別支援教育コース 1年生】

実習校や大学での経験を通して、児童の興味・得意を伸ばし、そこからできることを増やしていくという指導方法を学んだ。特に、実習校では学級の児童が好きな活動を取り入れた単元を構成し、興味や関心の幅を広げることや、身近な季節について学ぶ実践を行った。また、児童の好きな見立て遊びを活用し、手の巧緻性をねらいとしたスキルの向上を図った。さらに、実践研究を通じて、行動問題の低減や適応的な行動の形成では、児童の実態把握が重要であることを理解した。1年間を通し、児童の「好きなこと」や「強み」を多層的そして循環的にみていくことで、環境を工夫し、児童の学びを広げたり、適応的な行動を増加させたりすることができることを学んだ。特に、児童が楽しみながら学べる環境を整えることが、より良い成長につながることを実感した。今後も、児童一人ひとりに寄り添った支援・指導を模索していきたい。

仲村 あかり（実習校：山口大学教育学部附属特別支援学校）

～第8期修了院生 大学院での学びを振り返って～



【教育実践開発コース 2年生】

教職大学院で得たものとして特に大きなものの中に、教育現場での自分なりのこだわりを見つけ突き詰めていく力というのが挙げられる。講義を通して、教師とは何か、何を必要があるのかという知識を得るだけでなく、教育現場の現状に向き合うことで、「自分ならどうするか」といったことも考えることができた。この考えを他の院生と協議する中で、自分の考えが一変したり、深まったりすることを実感した。また、その学びを実習校で発揮する中で、理想と現実のギャップを感じ、それを埋めていくためにはどのようにすればよいのかというのを再度考え直し、深めることができたと思う。この考え続けた内容というのは、今後現場で働く上での自分なりのこだわりとなり、教師としての強みになっていくように思う。これからの教員生活でも、自分なりの考えを持ち、現状に満足せず常に学び続けることで、生徒と共に成長できるような教師になっていきたい。

池上 航太（実習校：山口市立川西中学校）

【学校経営コース 2年生】

教職大学院での大きな学びは、視野が広がり、自分自身や今まで当たり前になっていたことを見つめ直し、目的を再確認できたことである。当たり前となっていることに敬意を払いつつ批判的に問いをもち、学びを深めることができた。さらに、多様な視点を持つ仲間との対話を通じて、自分の意見を整理し、言語化する力が養われた。実践を理論的に捉える習慣が身につく、課題解決に向けた具体的なアクションを考える力も向上した。また、学校現場での実習を通じて、理論と実践の往還の重要性を実感し、現場の課題を単なる問題として捉えるのではなく、改善の余地があるものとして前向きに考える姿勢が身についた。加えて、教育改革や学校経営に関する知識を深めることで、長期的な視点を持ち、持続可能な改善策を模索する力も養われた。今後は、ここで培った学びを活かし、学校現場での実践に貢献するとともに、継続的な学びを大切にしながら、教育の質の向上に向けた取組を進めていきたい。

野母 佳澄（勤務校：下関市立本村小学校）

【特別支援教育コース 2年生】

教職大学院では、様々な人に出会い、自分の視野を広げることにつながった貴重な2年間であった。学校現場を離れて、外から原籍校を客観的に見ることができた。これまで日々の業務に埋没していたが、他県や他業種の方々と交流することができ、さまざまな意見や情報を得る「つながり」をいただいたことは、今後の教員人生において大きな財産となった。大学院の講義では、当初自分の分野には直接関係ないと考えていた学校経営コースの院生や、ストレートマスターの院生と協議する中で、自分とは違う発想や価値観に触れ、自身の考え方を改めるとともに、幅広い分野について興味をもち、学び続けることの大切さを実感した。

研究を進める中で、これまで学校では若手の一教員として実践する立場にあったが、リーダーとして異なる立場で他の教員を動かすことになり、その難しさを実感した。しかし、異なる世代や異なる価値観の教員が互いの長所を理解し、協力して指導支援が行えるよう調整することで、チームで様々な課題に対応が可能となる。大学院で学んだ行動コンサルテーションでは、一方的な指示ではなく、一緒に悩み、双方向でより良い方法を考えることができることが大事だと学んだので、伴走者のような教員になりたいと思った。今後、学んだことを学校現場で活かせるよう微力ながら尽力したい。

山本 麻衣（勤務校：山口県立田布施総合支援学校）



令和6年度 教職実践高度化専攻（教育実践開発コース・学校経営コース・特別支援教育コース）の1年間

◎…原籍校や教育委員会での実践 ★…大学での学び ◇…試験関係

月	主な行事	教職実践高度化専攻			
		教育実践開発コース (学部卒)	学校経営コース (現職教員)	特別支援教育コース	
				(現職教員)	(学部卒)
4	・入学式 ・オリエンテーション 「大学院概要」「学校実習概要」	★オリエンテーション ◇教採対策勉強会	★オリエンテーション	★オリエンテーション	★オリエンテーション
5		★前期学校実習の進捗状況 ◇教採対策勉強会	◎原籍校や教育委員会での学校実習中心 ★論文作成、研究の進め方	◎原籍校や教育委員会での学校実習中心 ★エビデンスに基づいた実践	★エビデンスに基づいた実践
6		★課題研究に関する情報交換	NITS 集中講義「学校組織マネジメント研修」(オンライン)		
7	・3コース合同研修会	◇山口県教員採用試験（1次）	★学校実習リフレクション ★ICTの活用、調査スキル	★実践研究に係る発表及び質疑応答	★実践研究に係る発表及び質疑応答 ◇山口県教員採用試験（1次）
8	・教職実践高度化専攻入試	◇教採二次試験直前の個人面接演習 ◇山口県教員採用試験(2次)	◎原籍校や教育委員会での学校実習中心 ★論文検討 ★実践研究の経過報告、検討	◎原籍校や教育委員会での学校実習中心 ★実践研究に係る発表及び質疑応答	◇山口県教員採用試験（2次）
9		★後期学校実習に向けて			★実践研究に係る発表及び質疑応答
10	・3コース合同研修会		★教育行政インターンシップ報告会 ★学校実習リフレクション	◎特別支援教育の専門性向上に向けた実践 ★教育行政インターンシップ報告会	◎特別支援教育の専門性向上に向けた実践
11	・教職実践高度化専攻入試	★課題研究の進捗状況と具体的な計画	◎原籍校や教育委員会での学校実習中心		
12	・日本教職大学院協会研究大会 プレ発表会	★中間発表会・成果報告会に向けて	★中間発表会リハーサル ・令和6年度日本教職大学院協会 研究発表大会（群馬大学）	◎原籍校や教育委員会での学校実習中心 ★実践研究に係る発表及び質疑応答	★実践研究に係る発表及び質疑応答
1	・中間発表会（M1） ・成果報告会（M2）		★成果報告会リハーサル		
2	・成果報告会（M2） ・教職実践高度化専攻入試 ・3コース合同研修会		◎原籍校や教育委員会での学校実習中心 ★中間発表会、成果報告会リフレクション ★1年間・2年間の振り返り	◎原籍校や教育委員会での学校実習中心 ★実践研究に係る発表及び質疑応答 ★1年間・2年間の振り返り	★実践研究に係る発表及び質疑応答
3	・修了式	★1年間・2年間の振り返り			★1年間・2年間の振り返り

子
校
実
習

子
校
実
習

子
校
実
習

教職大学院ってどんなところ？ Q & A

みんなの知りたいこと、答えます。

「教職大学院」ってどのようなところで、どのように学びを深めているのか…このコーナーでは、そんなみんなの「知りたい！」に答えるQ&Aをご紹介します。



Q 【共通】
大学院での一日のスケジュールは？

A 1コマ90分の授業で、2コマ連続の授業もあります。朝は8時50分から、午後は13時から授業が始まります。昼休みは1時間あるので、学食で食事を摂ることもできます。毎週木曜日の昼休みは「ランチミーティング」として、教室を開放していただいているので、コースや学年に関係なく院生と教授が食事をしながら交流する機会となっています。



Q 【共通】
大学院で授業がない時間は何をしていますか？

A 授業の予習や課題、振り返りに取り組みます。また、大学院の先生方の研究室を訪ね研究の相談をしたり、学部卒の院生であるストレートマスターと学校経営コースの院生が現場の様子を話したり、授業づくりについて一緒に考えたりします。図書館で研究に関する書籍を読むことも欠かせない時間です。



Q 【教育実践開発コース】
週二回の実習日は各院生の都合によって変更できますか？

A 基本的には実習日は火曜日と水曜日となっています。他の曜日は大学院での講義を優先的に受講することとなっています。夏休みや春休みなどの長期休業の際には、実習校と指導教員との相談の上、変更することができます。



Q 【学校経営コース】
教職大学院では、大学で学ぶ「大学月」と、原籍校で学ぶ「原籍校月」がありますが、原籍校月には何をしていますか？

A 週1日（基本的に木曜日）は大学院に通います。それ以外の日は、原籍校を中心に学校実習（教職総合実践）、課題研究（教職実践高度化研究）を行います。内容によっては、原籍校以外の学校、教育委員会等で実習や研究を行うこともあります。前月末までに翌月のスケジュールを立てて、第1指導教員と原籍校の校長等に報告します。



Q 【特別支援コース】
特別支援教育に係る授業はどのように行われていますか？

A 現職教員とストレートマスターと一緒に授業を受けることが多いです。子どもの行動問題の原因について、協議して分析し、解決策を導き出します。現職教員がいることで、学校現場についても聞くことができるため、実際にどう対応しているのか聞くこともできます。実際の現場の話や、素朴な疑問を大事にしながら学ぶことができます。

